（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1293000038		
法人名	株式会社　オールプロジェクト		
事業所名	つばさグループホーム ふくふく		
所在地	千葉県君津市貞元459番地		
自己評価作成日	令和4年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和4年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族との繋がり。
職員の有給休暇取得の促進。
重度化しても安心して暮らすことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「つばさグループホームふくふく」は、施設の随所に和を取り入れており、趣のある落ち着いた雰囲気となっている。母体法人のつばさグループは、様々な福祉サービス事業を展開しており、事業所相互に連携しながら、利用者のニーズに合せた柔軟な対応と適切なサービス提供を行っている。隣接のデイサービスとは、レクリエーションやイベント等の参加を通して交流しており、入居者の生活活性化に繋げている。また、施設の特性を活かし、認知症対応デイサービスも開所しており、入居者と利用者が馴染み継続や新たな馴染み関係が生まれる機会となっている。入浴支援については毎日実施しており、入居者の習慣や希望に応じた入浴機会が確保され、入居者や家族から好評を得ている。職員の働き甲斐に配慮しており、定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認すると共に、日頃からコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの要望や意向を把握し、施設運営に取り入れている。また、資格取得に向けた支援や資格取得後に現場で活かせる職場環境の整備が、職員の定着に繋がっており、入居者の生活継続を支えている。今年度はコロナ禍に伴い、市の指導に従い外部との交流を中止しているが、感染予防対策を講じながら、近隣の散歩やドライブ等は継続していると共に、施設内レクリエーションの充実を図る等、入居者の笑顔を引き出す支援に施設全体で取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月実施されるグループ内でのミーティング時に基本方針や理念の復唱を行っている。	「笑顔と心遣いを大切にしています。」と言う、施設独自の理念を掲げており、施設内に掲示する等、内部及び外部の人達への周知を図っている。理念については、新人研修プログラムに組み込まれており、全職員が理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。また、会議開催時に、理念や基本方針の確認を行うと共に、唱和を通して全職員の理解浸透に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には年数回、複数の職員と共に参加している。初詣・祭礼見学等、年中行事を通し、地域交流を支援している。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加等を通じて、交流を図っている。今年度はコロナ禍の為、外部との交流を中止しているが、予防対策を講じながら近隣の散歩やドライブ等は行っており、地域との関係継続に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	君津市生活介護支援サポーター養成事業、認知症キャラバンメイト講師等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をすると共に、利用者・家族からの意見を頂き改善に努めている。	今年度は、コロナ過の為、運営推進会議は開催されていない。市役所の指導により、施設の活動報告等の資料を構成員に提出し、意見を伺う形で、施設の理解促進やサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は日常的に行っている。認知症対応型通所介護の運営相談や運営推進会議を通して、密な連絡を取り合っている。また、生活支援サポーター研修の講師を担当する等、協力関係を構築している。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、連携を図っている。また、生活支援サポーター研修の講師を担当する等、地域福祉の充実に向け協働関係を構築している。現在、コロナ過の為、電話やメールでのやり取りを通して、情報共有や協力関係構築を図っている	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の研修を行い、拘束せずに済む介護についての理解を深めている。施錠は行っているが、施設の立地条件から、利用者の安全を第一と考え、ご家族へも説明し、ご理解を頂いている。	身体拘束排除における指針やマニュアルを整備していると共に、内部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。定期的に身体拘束廃止委員会を運営推進会議を活用して開催しており、支援の現況報告を行っている。また、年に一回の内部研修において、支援方法の確認や検討を行っており、身体拘束の無いケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループ内ミーティングでの研修を通して、虐待防止について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修プログラムに組み込まれており、管理者・職員共に理解を深め、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安に感じている点については答えている。説明にご納得頂いた後、署名・捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホーム共に窓口を設けている。利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、ご家族への報告や要望をリーダーに報告する等、日頃から心掛けている。	家族の来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通じて、意見や要望等を確認している。挙がった意見や要望においては、会議や連絡ノート等を活用し、全職員で検討する等、適切な支援に繋げている。しかし、現在はコロナ禍の為、市の指示に従い、人数や面会時間を設けながら対応し、意見や要望を確認している。また、毎月家族に郵送する手紙の中で、写真や文書で入居者の生活や活動状況を伝えており、家族との信頼関係構築に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に個別の意見聴聞機会を設定し、就労環境の改善に努めている。	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けている。また、管理者が個別に話を聞く機会を設けており、意見や思いの把握に努めている。事業所は職員の立場・経験・習熟度等の段階に応じて、研修への参加や資格取得も支援しており、職員の質の確保や向上を目指した計画的な育成に取り組んでいる。その他にも、希望休の受け入れも柔軟に対応しており、働きやすい職場環境の整備も行っている。今年度は、コロナ禍の為、外部研修への参加は行われていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者ならびに職員に対し、年間を通じた業績評価を設定し、やりがいのある職場作りに努めている。また、内部研修で出された意見を基に、働き易い環境作りを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修を始めとした、社内研修を通し、人材育成に努めている。また、資格取得を広く奨励し、人材資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	賀詞交歓会への参加、介護支援専門員協議会等の活動を通じ、ネットワークの構築を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、雰囲気を感じてもらったり、ご家族やケアマネジャーからの情報収集を行い、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家庭での過ごし方や習慣を伺っている。認知症対応型通所介護を利用して頂く事で、利用時の様子や雰囲気等を伝える様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の要望を含めて、不安な点や要望を聞き、関係作りに努めている。面会時にも、出来る限り要望を伺い、他のサービスを含めて、支援方法を展開するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に近い状態で過ごして頂けるよう家事を一緒に行ったり、季節ごとの行事も利用者と相談しながら「出来ること」を見つけ、行って頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書（行事写真同封）を送付したり、電話連絡や面会時に対応方法や生活状況について相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、馴染みの方の面会が継続できるように支援している。また、面会簿を使用し、家族や馴染みの方の来苑状況を見て連絡を取る等、関係性の継続に努めている	友人・知人・家族等の面会を随時受け入れており、馴染みの関係継続に配慮している。また、家族との外出も支援している。地域のドライブ等を実施しており、馴染みの場所との関係も大切にしている。現在、コロナ禍の為、家族をはじめ外部の人との面会は規制されているが、手紙や電話でのやり取りを奨励しており、馴染みの関係継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話や共同作業を行う中で、お互いを労わるという良い関係が築けているため、そういう状況を継続しつつ、デイサービスを通して新たな関わりの構築を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者様やご家族に対しては、これまでのお付き合いを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を主張できるよう意見を聞いたり、可能な限り思いを引き出す努力をしているが、全てを叶えられてはいないと感じている。	入所前に、本人や家族から意向を確認していると共に、医療機関からの情報も把握している。また、日頃の会話や観察等から本人の思いを汲み取り、会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、全職員で情報を共有している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にチェックシートに記入して頂いている。また、現在は認知症のデイサービスも併用しているため、そうしたサービスの利用を通じて、利用者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りを通じて、利用者個々についてのカンファレンスを開き、意見交換をしながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見を伺い、ユニットカンファレンスやミーティング時に意見を出し合い、見直し、現状に沿ったケアプランとなるように努めている。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。入居者の趣味や特技・身体状況や残存能力の把握に努め、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記載し、申し送りを行い、情報共有を図り、カンファレンスの際には意見を出し、ケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても可能な限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センター・保育園・隣接するグループ施設を訪問し、交流の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医がおり、定期的に往診を受けると共に、急な病変等にも対応できるような体制を作っている。（医師・薬剤師とも24時間オンラインで対応）	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的にかかりつけ医による往診を実施しており、適切な医療支援を行っている。併設のデイサービスや特別養護老人ホームの看護師と連携を図っており、適切な健康管理や医療面の相談等を行っている。協力医療機関及び調剤薬局とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や急変時の協力体制が確保されている。今年度は受診や通院は家族の希望に応じて対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するデイサービスや特養に連絡を取り、体調変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に立会い介護対応連絡シートを提供。退院時には看護サマリーを頂き、入院中の状態把握や帰所後の支援の参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の思いを尊重し、可能な限り支援を行い、必要に応じ、かかりつけ医に意見を求め、話し合いのもと、方針を決定する。	重度化・終末期における施設方針を明文化すると共に、契約時に家族に説明し、同意を得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心で納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から提携病院の医師や関係機関等と連携を図り、その時々の状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間訓練想定の避難訓練を実施し、全職員が身につけられるよう努力している。地域の方々と共同訓練には至っていないが、利用者家族より、緊急時の協力参加のご意見を頂戴している。	火災報知機・自動通報機・スプリンクラー等の消防設備を設置している。定期的に消防避難訓練を実施していたが、3月以降はコロナ禍により、消防署立会い避難訓練を見合わせている。前回の台風被害時の反省を活かし、非常用自家発電機や備品等の設備強化を図る等、災害に備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時等、プライバシーの確保に注意し、不快な思いをしない声掛けやタイミングに配慮しているが、十分ではないと感じている。	プライバシーの保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されており、プライバシーに対する意義や理解を全職員が共有している。また、会議等で、プライバシーや接遇について、話し合いを行い、適切な対応に繋げている。日中は玄関のカギは施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情、生活歴から思いをくみ取る努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、出来る限り希望に添えるよう努めている。職員のペース支援するのではなく、利用者様のリズムで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、必要に応じ、職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ、食事の準備や片付け等をを手伝って頂いている。職員は、毎食同じ食卓で一緒に食事を摂っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から後片付けまで、入居者と職員が共同で行なっている。献立については、入居者の希望・身体状況・嗜好・旬の食材を取り入れる等、職員手作りの食事が提供されている。定期的に行事食・誕生会等を企画・実施し、調理方法・盛り付け・提供方法等に工夫を凝らし、食に対する様々な楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量のチェックを行ったり、その方に合わせた携帯で摂取しやすい工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援している。自分で行うことが難しい方については職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人に排泄チェックシートを用意し、その排泄パターンの把握に努めている。また、本人の能力に応じて、自力排泄を促す事で、より良い生活支援を展開できるように努めている。	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、水分チェック表の活用・献立・運動・散歩・医師や看護師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを用いて、医師と相談のもと、必要な処置を施している。また、食事（バナナ、ヨーグルト等）や飲み物（牛乳等）による予防や対応も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴支援は毎日行っている。体調や要望に合わせ対応。利用者の状態に応じて、声掛けをしながら支援している。一人ひとりがゆっくりと入浴でき、心身の疲れが取れる様な支援を心掛けている。	入浴は毎日実施していると共に、入居者の希望や体調に応じて、時間・回数等を柔軟に調整する等、適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。他にも、入浴剤や季節の草花や果実を活用しており、入浴をより満喫できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息を取って頂けるよう支援している。室温や周辺環境を整え、眠りやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師に指導やアドバイスを受け、内服管理をしている。内服チェック表で全職員が薬の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活面での役割を作っている。外出や季節の行事を実施し、支援している。医師の許可、家族の要望により飲酒も認めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ、散歩や外出の機会を作り、気分転換を図る。自宅への一時帰宅や墓参を希望される利用者様や当日の外出希望があるが、家族の協力が得られなかったりと中々、希望を叶えるに至っていない。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。今年度はコロナ禍により、外出の機会が減っているが、感染対応策を講じながら、散歩やドライブ等の外出は継続的に実施している。また、施設敷地内の庭やウッドデッキを活用した戸外での活動も取り入れる等、気分転換の機会も設けている。他にも、節分・ひな祭り・夏祭り・敬老会・クリスマス・誕生会等、施設内でのレクリエーションの充実に努めており、入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、金銭管理は事務所で一括して行っている。外出時等、本人の希望に応じ、使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を掛けたり、随時支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度・音・採光に配慮したり、外出の写真や書道等の作品を掲示し、楽しく過ごして頂けるよう努めている。ユニット毎に職員と利用者様で空間作りを行っている。	施設は2階建で、随所に和を取り入れており、趣のある落ち着いた雰囲気となっている。各フロアーはバリアフリーとなっており、トイレや浴室等は十分な介助スペースが確保されている。施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。エレベーターが設置されており、身体状況に応じた環境整備がなされており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・和室・ソファ・デッキ等、自由に利用できるスペースを設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご家族にお願いし、家具や衣服・食器類等、使い慣れた物や愛着のある物を用意して頂く事をお願いしている。	入居時に本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、和・洋室仕様の選択もでき、希望に応じてポータブルトイレやテレビも使用可能となっており、生活歴に配慮した居室作りを支援している。各居室に十分な収納スペース・鍵が設置されており、入居者のプライバシーに配慮した造りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンからフロアが見渡せ、利用者様の様子が確認しやすい造りとなっている。テーブルや椅子の配置に気を配り、動線の確保をしている。また、廊下、トイレ、脱衣所等には手すりを付け、安全に移動が行える。		